

水害から、いのちとくらしを守るため みんなで力を合わせる「流域治水」

私たちの地域を流れる川は、国土交通省や自治体などの「河川管理者」が管理していて、堤防をつったりなど水害から地域のくらしを守るための対策を行っています。

しかし、最近では強力な台風が発生したり河川管理者による対策だけでは防ぎきれない災害がこの先、発生するかもしれません。

そこで、河川管理者だけではなく、企業や学校、一般住民など流域のさまざまな人や団体が協力して、水害からくらしを守っていく取組として「流域治水」が進められています。



流域治水ってなに？

1

きのう昨日はすごい雨だったなあ。最近、急に大雨がふることが多くなった気がする…。

ちきゅうおんだんか えいきょう
地球温暖化などの影響で、実際に大雨がふる回数は以前と比べて増えているし、いつどこで大きな洪水が起きてもおかしくない状況なんだよ。

2

自然の力はおそろしいね。ものすごく大きな洪水が起きたらどうしようもないの？

ていぼう ごかん
堤防や護岸をついたり、地域のみなさんの安全をまもるための取組を進めているけど、それでも防ぎきれない水害が今後起こるかもしれないんだ。

3

水害をできるだけ防ぐため、水害が起きても被害をへらすため、川を管理する人だけでなく、地域の企業や住民のみなさんで力を合わせて行う「流域治水」が大切なんだ。

りゅういきちすい？
どんなことをするの？

4

保水できる森林づくりなど洪水時に川へ流れ込む水をへらす取組や防災施設をつくる取組だったり…。みなさんが避難意識を持って、日ごろからそなえておくことも流域治水につながるんだよ。

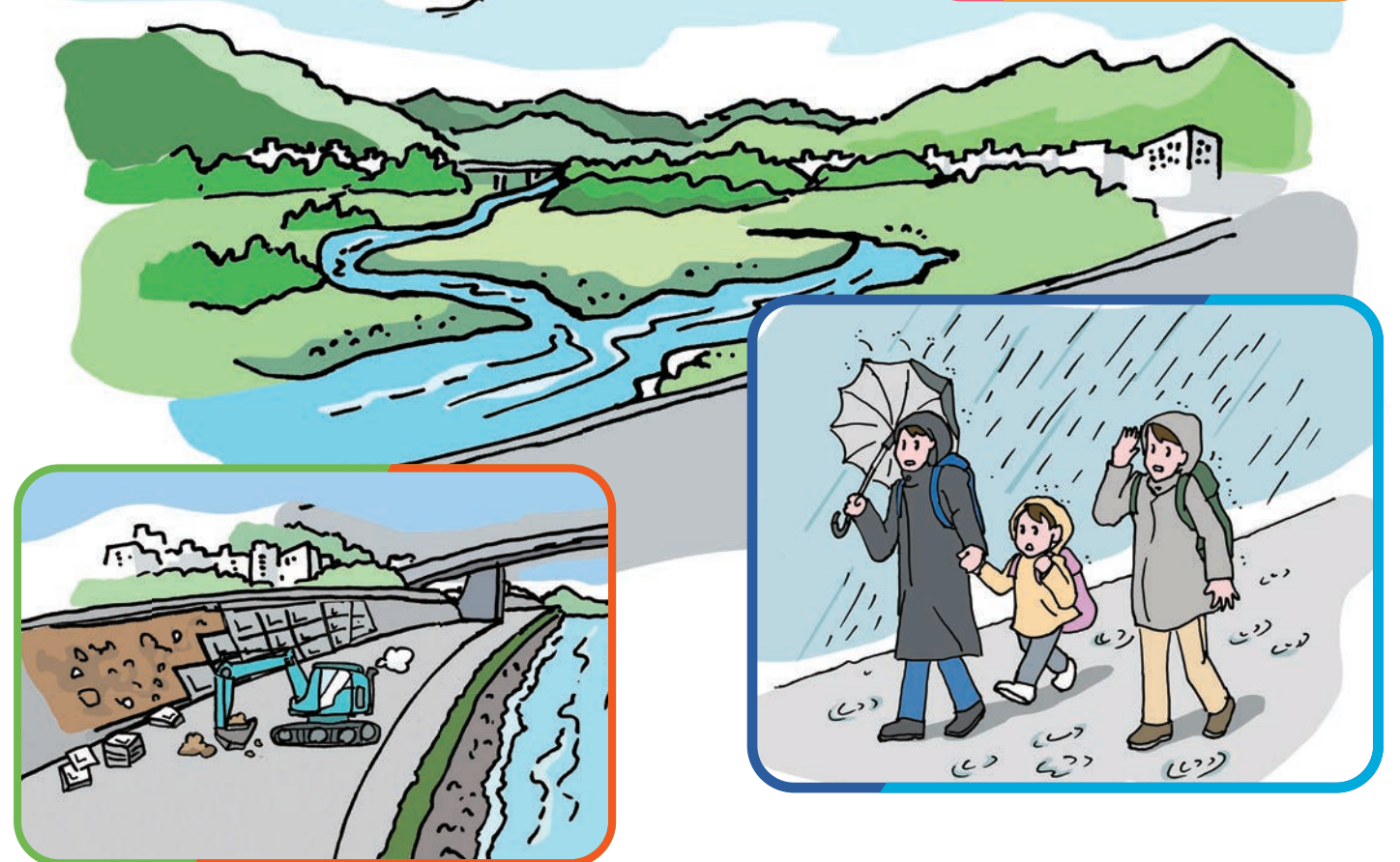
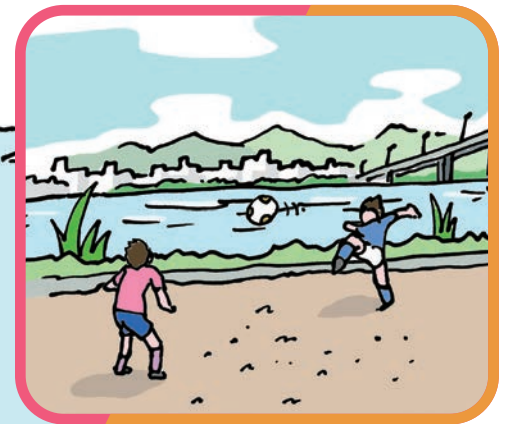
なるほど！私にもできることがないか調べてみよう。

川を知り、 川に学ぶ！

RIVER
GUIDE
鳥川・神流川
KARASU RIVER / KANNA RIVER

からすがわ かながわ かぶらがわ うすいがわ
鳥川・神流川・鎭川・碓氷川

もっと知りたい！
自分たちの町の川のこと。



国土交通省 関東地方整備局 高崎河川国道事務所

<http://www.ktr.mlit.go.jp/takasaki/>



国土交通省 関東地方整備局

高崎河川国道事務所

私たちのくらしと川

私たちが住む地域のまわりを流れる川は、生活や農業、工業などに必要な水をもたらし、私たちのくらしをささえています。

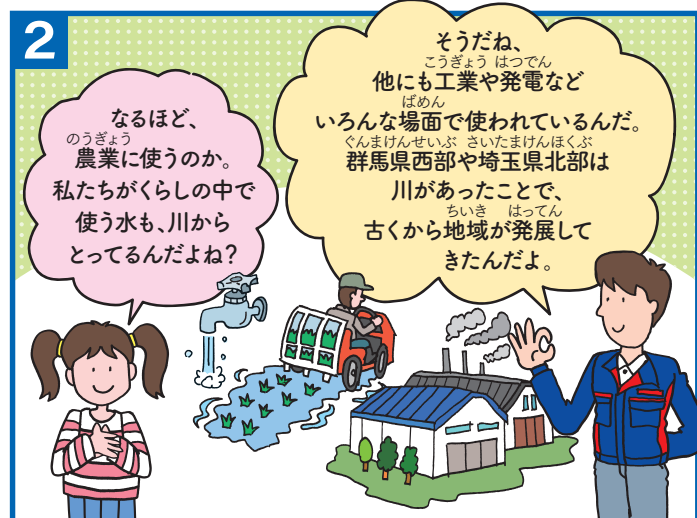
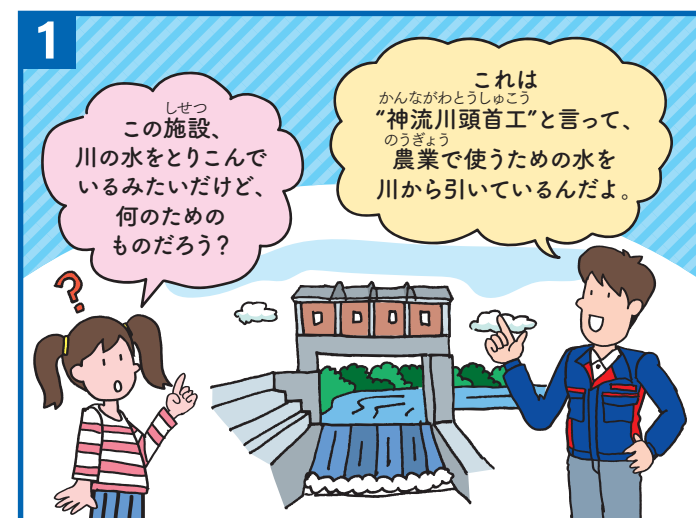
また、自然豊かな川の空間はさまざまな動植物の生息地になったり、いろいろな魅力をもった場所です。

一方で、川では過去にたびたび洪水が起き、人びとのくらしを苦しめてきました。私たちが安全で安心なくらしを続けていくためには、洪水など水害が起きたときのために、日ごろからそなえておくことが大切です。

本パンフレットでは、川のことや水害のこと、水害からくらしを守るための対策やみなさん自身ができる行動について紹介しています。



くらしを支える河川の役割

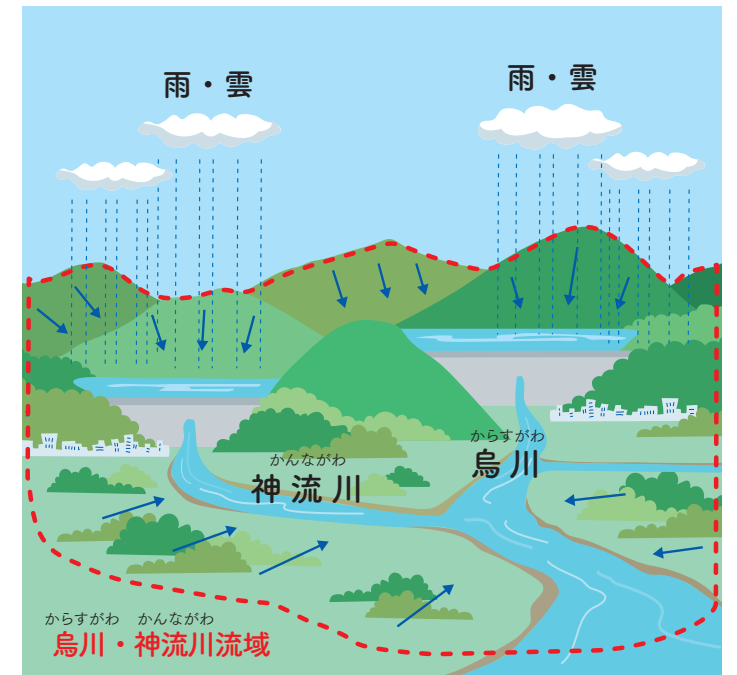


雨がふると川はどうなる？

ふった後の雨や雪は、地表を流れたり、地面にしみ込みながら、川へと流れ込んでいきます。川に直接ふり注いだ水だけではなく、みなさんの家の周りにふった水も川に集まります。大雨がふった場合などに川の水が増えすぎてしまうと、水を海へ流しきれずにあふれてしまい、洪水などが発生してしまうことがあります。

私たちがくらす川の流域とは？

雨や雪が流れ込む範囲をその川の「流域」といいます。どの場所がどの川の流域かは、分水嶺と言われる山や丘によってわかれています。



雨がふると川はどうなる



安全なくらしのための川づくり

群馬県内では、過去にさまざまな洪水が起こり、地域の人々に被害をあたえてきました。過去の災害を教訓に、川の工事など、地域の安全を守るための対策が行われてきました。

群馬県内で起こった過去の洪水

昭和10年 9月洪水（台風）

9月24日からの台風の影響で、10時間余り続いた豪雨で土石流が発生。



昭和22年 9月洪水（カスリーン台風）

9月13日からの前線や台風の影響で土石流や河川のはんらんが発生し、多くの死者・行方不明者など発生。



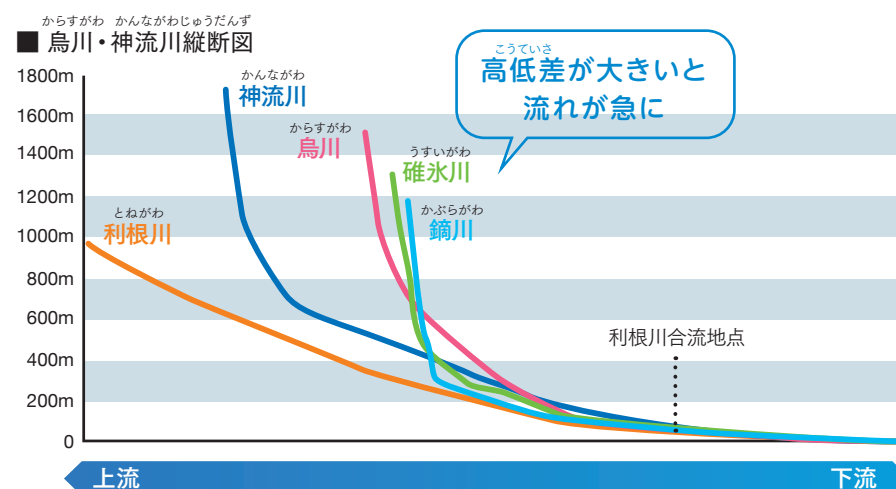
令和元年 台風19号（東日本台風）

10月13日からの記録的な大雨の影響で川のはんらんが相つぎ、多くの川の施設が破損・流出。



群馬県内を流れる川の地形の特ちょう

川の水は、標高が高い上流から低い下流へと流れていきます。上流では山地などを通るため川の流れが急になり、下流ではゆるやかになります。烏川や神流川は、傾斜が急な山地を流れるため、大雨のときなどに、上流の水が下流へ一気に流れこみ、川の水位が短時間で上がることがあります。



川の上流の様子



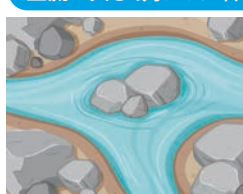
川の下流の様子



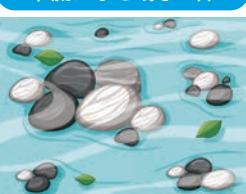
川を流れる水のはたらき

川原の石などは、上流から下流へ流されていくうちに、川岸や川底にぶつかったり、石どうしがぶつかりあうなどして、だんだん小さくなります。上流では岩や大きな石が見られ、下流には、角がとれた丸い小石などが見られます。

上流は大きく角ばった石

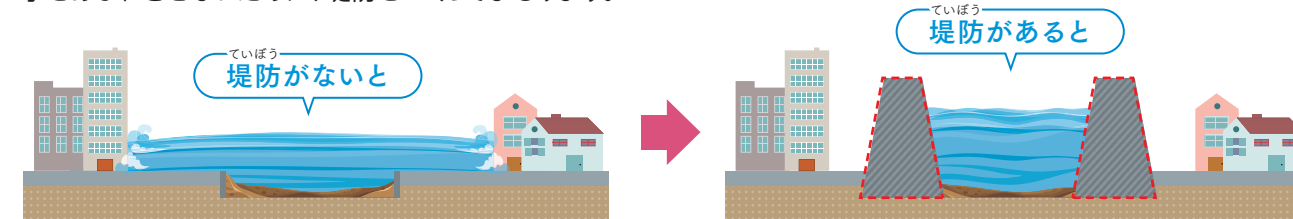


下流は小さく丸い石



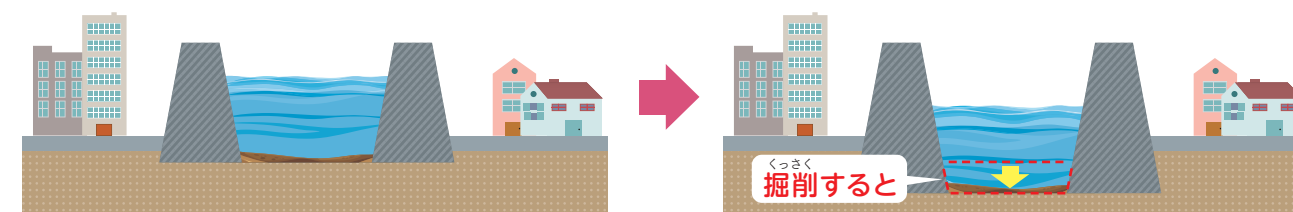
川の水をあふれさせないための堤防

大雨などで川の水位が大きく上昇すると、川から水があふれてしまい「はんらんする」場合があります。水をあふれさせないために、堤防をつくってまもりまします。



川の水を流しやすくするためのくふう

大雨などで川の水位が上がるのをふせぐために、川底を深くしたりすることで、川が流せる水の量を増やす対策を掘削といいます。



気候の変化でこの先も心配される水害

地球温暖化の影響などによって、最近では強力な台風の発生が増えており、全国各地で毎年のように大きな水害が発生しています。山地と平地が組み合わさっている烏川・神流川のまわりでは、山地では土砂災害、平地では洪水はんらんなどの発生が、今後さらに増える可能性があります。堤防などの河川施設だけではふせぎきれない大きな水害が発生することもあります。日ごろからいつ起こるかかわからない水害が起こったときに、安全に避難できるよう、準備をしておくことが大切です。



水害からいのちとくらしをまもるために大切なこと

水害を防ぐための川づくり



水害から自分自身をまもるための行動



水害から自分自身をまもるための行動

水害から身を守るためには、もしもの時の行動をあらかじめ決めておき、リアルタイムで提供される災害情報をチェックしながら、避難をスムーズかつ安全に行うことが大切です。

自分が住む地域の水害の危険性を知ろう

自分の住んでいる地域における、洪水の時に浸水が予測される範囲や、どこにどのルートで避難すればよいかなどは、ハザードマップを見ることで事前に確認できます。ハザードマップは各市町村で作成されており、ハザードマップポータルサイトからチェックできます。



洪水時にチェックする情報を知ろう

気象予測や川の増水状況、川のライブカメラ映像など、インターネット上で防災に役立つさまざまなリアルタイム情報が提供されています。



安全に避難するための行動をマイ・タイムラインで計画

マイ・タイムラインは、台風の接近など大雨が予測される際に、時間や川の水位に合わせて、家族の誰が、いつ、何をやるのか安全に避難するために自分がとるべき行動を計画するものです。マイ・タイムラインの作成に役立つキットなどをインターネット上でダウンロードできるので、ぜひ活用してみましょう。

一人でもできるマイ・タイムライン

ひなんこうどうけいかく
(個人の避難行動計画)

かんいさくせい
簡易作成キットをダウンロード



洪水時逃げ遅れないために



マイ・タイムラインって何？

